

令和3年度第3回社会教育委員会議定例会（第32期） 会議録

会議名（審議会等の名称）	令和3年度第3回社会教育委員会議定例会（第32期）		
開催日時	令和3年11月25日（木曜日）午後3時30分～午後5時		
開催場所	文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601講習室		
出席状況	委員	10人：伊藤（仁）委員、大川委員、大澤委員、小森委員、齋藤（正）委員、齋藤（道）委員、中山委員、箱崎委員、長谷部委員、丸田委員	
	関係各課	3人：文化スポーツ部長、図書・学び交流課長、こども・青少年課長、	
	事務局	2人：文化スポーツ部図書・学び交流課学び交流係長、同係員1人 学び交流係（259-6104）	
	傍聴人数	0人	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部非公開
非公開・一部非公開の場合 はその理由			
	<p>1 会議次第</p> <p>1 報告事項</p> <p>1) 令和3年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p>2) 家庭教育支援に関する事業について</p> <p>2 その他</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p><開会></p> <p><事務局から配布資料の確認></p> <p><議長あいさつ></p> <p><報告事項></p> <p>1) 令和3年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p><事務局より変更点の説明></p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、令和3年9月13日に開催予定であった県社会教育委員連絡協議会研修会は動画配信によるWeb開催、令和3年10月5日に開催予定であった社会教育委員連絡会議は動画配信含む書面開催にそれぞれ変更となった。</p> <p>（議長）これまでの研修会等で、それぞれ参加された委員より報告いただきたい。では、まず県社会教育委員連絡協議会研修会について、報告をお願いします。</p> <p>（委員）今年度は動画配信で実施された。まず、葉山町の令和2年度実績報告の中で、読み聞かせ活動の充実に向けた取り組みの説明があった。社会教育委員に寄せられた読み聞かせサークルの意見などを取りまとめたところ、どんな本を読み聞かせに使用したらよいか、他の学校やサークルはどんな活動をしているのか、研修の機会が欲しい、などの意見が寄せられた。そこで社会教育委員から、図書館の職員の研修会に読み聞かせサークルが参加するよう</p>		

な機会を設けたり、小学校で読み聞かせをしている保護者の意見交換の場に児童館の職員も参加してもらう取り組みなどの説明があった。コロナ禍での活動はなかなか難しいが、学校だより、PTA だよりなどを通じ、家庭での読み聞かせ動画を配信するなどして、読み聞かせ活動を充実させていきたいということであった。山北町からは、少子高齢化時代における社会教育の在り方をテーマに挙げていた。山北町の共和地区にお住まいの方から報告があり、共和地区について取り上げていた。社会教育委員が共和地区の行事に参加し、地域の住民との交流を図るということをしてきたとのこと。また、小学生以上の方にアンケートを取ったところ50パーセント以上の方が住みやすいという結果だったが、過疎化してきているので交通の便が悪く住みにくいという意見もあったとのこと。人口の減少や高齢化を考えていくには行政のバックアップが必要なので、行政とタイアップして考えていかなければならないと報告されていた。また、社会教育委員の認知度を上げるために社会教育委員だよりの発行をしているとのことであった。

(委員) 私も参加したので、報告させていただく。今回の研修会のテーマは、「社会教育委員の新たな役割」であった。事例発表の後に、明治学院大学社会学部社会学科教授の坂口緑氏による、「社会教育委員の新たな役割・社会の大きな変化の中で」という講演があった。講演は3つのテーマについて話をされていた。1つ目はコミュニティの変容。2つ目は神奈川教育ビジョン。3つ目は生涯学習者であること、生涯学習を支援する人であること、人づくりプラス地域づくりの事例、社会教育委員の新たな役割についてであった。内容としては、最近の日本人の傾向として、団体に帰属することがすべてではなく個人活動もあるということ、そして地域における社会教育の目指すものは社会教育を基盤とした人づくり、繋がりづくり、地域づくりである。社会教育というのは個人の成長と地域社会の発展、双方に重要な意義と役割がある。それぞれのライフステージで学ばなければいけないことが起こり、自分で自分のニーズに合わせて学ぶときに社会として支える必要がある。学習することはその人だけの豊かさだけでなく社会の豊かさにも通じる。生涯学習者であるとともに生涯学習者を支援する人であることが必要である。最後に、社会教育委員の役割・必要性として7点挙げられていた。1点目は地域の実情に詳しくなること。2点目は地域の施設や社会事業にて住民の声に耳を傾けること。3点目は地域づくり、街づくり、NPO、ボランティア団体の活動に参加すること。4点目は研修会に参加してネットワークを広げること。5点目は社会教育委員同士の情報交換をすること。6点目は協力して地域課題に取り組むこと。7点目は教育委員会の担当者と意思疎通を図ること。

(議長) では、次に社会教育委員連絡会議について、報告をお願いしたい。

(委員) 動画配信については、「コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて」ということで、文部科学省コミュニ

ティスクールマイスターであり、三鷹市総括スクール・コミュニティ推進員の四柳千夏子氏による講演であった。その中で、子ども達と取り組む防災活動について紹介していたが、子ども達が防災について勉強し、地域の人と教え合うというものであり、とてもよい活動だと思った。また、世界各国の18歳に行った若者の意識調査についても紹介していた。自分を大人だと思うかという問いや、社会議題について家族や友人と議論しているかという問いに対し、日本は他国と比べ意識が低いということが分かり、日本は大丈夫なのかと思ってしまった。何が問題なのか考えていかなければならないのではないかと思った。

(議 長) 私からも報告させていただく。書面開催ということで、一方通行ではあるが県央の各市の取り組みについて確認することができた。動画配信については、これまで何回かコミュニティスクールのお話を聞いたことがあるが、一番分かりやすかった。大和市は指導室が担当しているが、他市はほとんど社会教育の部署が担当している。社会教育が関わっていないとコミュニティスクールについて進めていくのは難しいと思う。指導室だと学校の域を出ない。地域学校運営協議会は、コミュニティスクールについて意見を述べたり、学校長の言ったことを自分たちで咀嚼し、自分たちの考えをもって対応していくというような主体性を持つべきだが、今の運営協議会はそこまでいっていないのではないかと思う。コミュニティスクールは学校を核として、地域で子ども達を育てるということで、我々のしている家庭教育支援に似ている部分があると思う。先ほど小森委員が話された防災活動など、企画については学校ではなく運営協議会が企画し、校長に進言するというものであるという話があった。コミュニティスクールについては、社会教育委員会議の1つの議題として皆さんと考えていくのもいいのではないかと思った。

社会教育委員連絡協議会の理事会がオンラインで行われたので、こちらについても報告させていただく。初めてオンライン会議に参加したが、カメラに向かって話すのは緊張した。これまでの事業と会計報告についての話があった。会計報告については理事全員で了承された。その後、情報交換があったが、内容については事前に各市町村から集約した5つの議題についてであった。1つ目は新型コロナウイルス感染拡大における問題について。2つ目は人と人とのつながりに向けてできること及びSDGsの視点からできること、3つ目は社会教育委員の活動の周知についてであるが、どこの市町村も社会教育委員の存在意識は薄いという危機感を持っている。社会教育委員を市町村民にご理解いただけるような活動をしなければならないと思う。4つ目は市町村の図書館運営の活動状況について。5つ目は地域学校協働活動の取り組みについて。議題とは別に、県から社教情報を値上げするかもしれないと報告を受けたので、大和市は市で社会教育委員分購入してくれているが、値上げされると行政の予算に響くため、全国社教連へ値上げしないよう提案してほしいと発言させていただいた。来

年度の値上げは無いということであった。

～休憩～

～再開～

2) 家庭教育支援に関する事業について

(議 長) 資料2を基に事務局から説明をお願いする。

(市) 資料2の下にページ数が記載されているが、3ページ目に「社会教育委員からの意見の欄」がある。本日の会議ではこちらへご意見を頂き、その上で事業について「継続・一部見直しの上で継続・廃止」のご検討をお願いしたい。では5ページ、当日の写真をご覧いただきたい。委員の皆様全員にご出席いただきましたので、当日の様子は短縮してご説明させていただく。まず、丸田議長によるあいさつでは、この講座の趣旨について、社会教育委員、社会教育主事の役割と家庭教育支援事業が父母を対象に行われることについて、事業の目的を踏まえてお話しいただいた。大澤副議長による司会進行で、社会教育主事による講義へ進んだ。今回は、小学生の子を持つ保護者を対象とした講義資料を作成し、文部科学省の調査「全国学力・学習状況調査」など、統計資料をもとに、家庭教育や親子のコミュニケーションの大切さについて、学力にも影響があることなどを紹介した。講義後半にグループワークの時間を取り、コロナ禍における自粛期間の各家庭での取り組みを共有してもらったが、各グループ10分では足りないくらい活発な情報交換が行われていた。室内での講義終了後は、前回も好評であった佐々木洋氏を講師に迎え、屋外でのフィールドワークを行った。豊富な知識と経験、笑いを誘うトークで社会教育委員の皆さん含め、受講者すべてが笑顔で講義を受ける様子が伺えた。また内容についても、受講者が各家庭や、地域の子どもに対して実践できるような内容で構成していただいた。

<以降、図書・学び交流課社会教育主事より実施結果の報告>

(議 長) 以上、事務局からの結果報告であり、報告書には「社会教育委員会会議からの意見」の欄があるため、今日の皆さんからの意見をまとめることとなるが、今年度から4名の方が新たに社会教育委員になっているので、なぜこの事業を行っているのかについてご説明させていただく。

<資料2,13ページ【事業の背景】【実施事項等】について説明>
以上の経緯を踏まえたうえで、事業結果報告書1～15について、各委員からご意見、ご質問をいただきたい。

(委 員) 3の学習内容・学習方法についてはB評価となっているが、参加した皆さんから、色々なことを知ることができた、社会教育委員について知ることができたというご評価を頂いていることからA評価でもよいのではないか。

(委 員) その意見に同意である。講座に参加することによって色々な情報交換ができたのではないかと思うので、A評価でよいと思う。

- (議 長) 3の学習内容・学習方法の評価をBからAに変更してはどうかというご意見が出たがそのとおり変更するというのでよいか。
- (一 同) 異議なし。
- (議 長) ではそのとおり変更する。小学生の保護者の申し込み者が少なかったことについて報告させていただくが、下福田小学校の校長先生にお願いし、全校児童にチラシを配布してもらった。しかし、コロナ禍で保護者に参加してほしいとお願いするのは難しかったと聞いている。講座の内容に魅力がなかったから集まらなかったわけではなく、参加したいけど行けなかったという実情もあるということをご承知いただきたい。
- (委 員) 掲示板への掲示や声掛けなど努力はしたのだが、地区の活性化会議の役員会でPTA会長の協力を得ることができなかったのが一番大きい。PTA会長で医療従事者の方から、内容はいいが何故コロナ禍でこのようなことをやるのかとの発言があった。役員会を開いた時期は10月上旬だったので、新規感染者がまだいる状況であったことから、医療現場の逼迫状況について話されていた。その話を受け、各小学校のPTA会長からも積極的に誘うことはできないとの発言があった。また、活性化会議の会長が下福田小学校にチラシを持って行った際にも校長先生に同じようなことを言われたということで、コロナ禍で参加者を集めることの難しさを感じた。市北部に住んでいる方にも声をかけてみたが、会場が遠いことがネックであった。保護者の方の参加が少なかったことは残念でならないが、その分、地域活性化会議の方や子どものために地域で活動されている方の参加が多かったので、それはそれでよしとしてもよいのかとも思った。続いて、保育が無かったことについてだが、ゆとりの森には他に部屋がなかったというのが致命的であった。会場外で弁当を食べている子どもを見て可哀そうだと思った。参加者の中には、子どもを連れてきたかったが、座学の際は子どもが入れないので親に預けてきたという方もいた。その方の子どもは虫が大好きなようで、外のフィールドワークをした際に連れてきたかったと言われた。色々と課題が見つかり、地域でやることの難しさを感じた。学校でチラシを配っても親に見せない子も多いようなので、地域限定であっても広報に載せるなどの検討をしてもよいのではないかと思った。
- (委 員) 保護者がもっと来てくれるとよいと思った。今回の参加者は日頃から子どものために地域で活動をされている方が多く、自分の意見を持って話をされていたので、こちらの意図とは少し違うところが見られた。やはり子どもを現在育てている方にもっと来てほしい。保育が無かったことについては、コミセンであれば部屋数があるのでよいか、ゆとりの森は他に部屋が無いので会場としては厳しかった。人数については今回の20名ぐらいがベストだと思う。
- (議 長) では結果報告書1～15についてはよろしいか。15の最後に、学びの継続、循環型の家庭教育支援の体制を根付かせるための今後の展開についてとあるが、我々が今までやってきたことを続け

ていくのか、ここで終わりにして新たなことを進めていくのか、皆さんの意見を聞きたい。

(委員) コロナが落ち着いてからもう一度やってみてはどうか。今回はイレギュラーだった。

(委員) 今回は、準備を進める段階で新型コロナウイルスの感染状況が読めない特殊な事情であったこと、場所が交通の不便なところであったこと、アンケートに講座の対象ではない参加者がいたという意見があったことなど、様々な課題をクリアしてもう一度やってみたい。

(委員) コロナ禍ということで、仕方がない面も多くあった。今後はwithコロナになっていくという意味では、屋内よりも屋外で実施していくほうが安全ではないかと思う。子ども達が自然の中でのびのびと遊べるような環境づくりをしていくことも社会教育委員の役割ではないかと思うので、何らかの形で継続していきたい。単発で年に1回花火を上げてやるというのも大事だが、その花火を上げたことで終わりではなく、そこからゆるやかに、少数でも構わないので継続していくように社会教育委員として何かできることがあるのではないかと思うので、今後話し合いをしていきたいと思う。

(議長) 3名から継続してはどうかというご意見を頂いた。ただ、事業を行う上では次のステップをどうするかということも考えることも必要である。いつまでも我々が続けるわけにはいかない。社会教育委員は、行政にこういった事業をやってはどうかという報告・提言をしていくという役割がある。我々がこれまでやってきたことをまとめ、行政へ報告し、今後の行政に活かしてもらうという方向性を持ってやっていかなければならない。継続という形になるとしても、この先どのように大和市に家庭教育支援を根付かせていくのか、どのように行政にお願いしていくのかということを考えていくことが必要だと考えている。検討してみた結果、3回やってみたがまだ足りない部分があるのでもう1回やってみようという形になるかもしれない。

今回の事業について社会教育委員からの意見をまとめる必要があるが、事業内容についてはいかがだったか。

(委員) 親御さんからのご意見だが、入学後にすぐ緊急事態宣言になり学校が休みになってしまい、ずっと家にいるわけにもいかないので散歩に出かけて公園に行っても遊具は全て使えないようになっていて悩んでいたと聞いた。外でのフィールドワークで教えてもらったことをその時に知っていればよかったという話をされていた。家や外で、こんなことができるという事例を示してあげるとよいのではないかと思った。

(委員) 事業の内容は良かった。学びの循環ということで、教わる人が教える側になるということは素晴らしいことだと思う。佐々木氏が、透明のケースを持っていて、その中に捕まえたカメムシなどを入れることで、子どもにそれを宝物のように意識させていたこと、また生き物に無駄な生き物はないと言っていたのが印象的で

あった。参加者と交流ができてよかった。この事業は続けていきたい。

(委員) 自分自身楽しむことができたので、子ども達はもっと楽しかったと思う。

(委員) 講師が素晴らしかった。あのくらいの森の中でこんなにできるかと驚いた。自分自身も楽しむことができた。自然と触れ合い、五感を養えるので素晴らしい講座だと思う。もう少し続けていけるとよいと思う。

(委員) 講座自体は素晴らしいが、これをずっと社会教育委員がやっていくわけにはいかないと思う。今年なぜ活性化会議に協力してもらったのかというと、この事業を活性化会議にやってほしいという議長からの提案があったからである。3回実施しているが、私は5回ぐらいは社会教育委員でやってもいいと思っている。その先に、この事業を地域でやってくれるような団体に繋げていきたい。今回のフィールドワークは活性化会議の方にも学んでいただったので、地域で同じようなことをやりたいと考えている。活性化会議から出席された方の意見をまだ聞いていないので、また皆さんに報告させていただきたい。

(委員) 議長から、社会教育委員は事業の提言、提案をする立場であるということの前々から伺っていて、私もそういうものだとして認識をしている。今回やったことをきっかけに、我々の手を離れ、広く独り歩きしてくような仕組みを作っていかなければならないと思う。どこでやるか、誰がやるか、きっかけを作るのは誰かというような大枠を作る作業をこれから社会教育委員としてやっていけば色々なものに応用ができるのではないかなと思う。

(議長) 現在子ども達の置かれている現状というのは家庭だけではどうしようもない部分というのがある。やはり子ども達は地域で育っていけないといけないと思う。地域で育てるということについては9つある活性化会議で既に行っている。それらをきちんと位置付け、サポートしていく仕組みづくりをしていくのがよいと思っている。今やっていることをどう繋げていくかが今後の話し合いになっていくと考えている。ところで、皆さんからフィールドワークの話は出たが、社会教育主事による講義についてはいかがだったか。参加者の心の中に入っていき、よい講座だと思った。ポイントがしっかりしていて流石だと思った。

(委員) 現役の子育て世代ということで説得力があった。

(議長) それでは事業については継続という形でまとめたいが、よいか。

(一同) 異議なし。

(議長) その他、事務局から何かあればお願いします。

(市) 次回、年明けに会議を予定しており、2月15日以降、28日までで人数の多い日で確定したいと考えている。

～各委員に確認～

では、次回は2月17日(木)15時からとする。

事務局からは以上。

(議長) 以上で議事を終わる。

	<閉会>
会議資料	<ul style="list-style-type: none">・ 令和3年度第3回社会教育委員会議定例会（第32期）次第・ 第32期大和市社会教育委員名簿・ 令和3年度社会教育委員に関する研修会等について・ 家庭教育支援に関する事業について